

中国の沿岸部の工場での賃上げやそれを巡るストが大きな話題になっている。50万人前後の労働者を使っていると考え、世界中の主力企業のために電子機器の生産を行っていた台湾系の富士康科技集団（フォックスコン）で地方出身の若い労働者の自殺が続いた。これがきっかけで、この会社は所得倍増ともいえるような賃上げを行った。このことから沿岸部の多くの工場でも賃上げの動きが顕著になり、日系企業も多くも中国での生産コスト上昇への対応を検討せざるを得ない状況である。

この動きをどう見るべきなのだろうか。いろいろな



伊藤元重の

## ニュースな見方

見方があるだろう。1つは中国が直面する深刻な格差問題である。格差の大きさについてはいまさら強調する必要もないことだろう。第2の論点は、中国の人口動態の変化が、重要なことはそれが共産党一党独裁という政治体制の中で起きてきていることだ。政府のトップはこの事態を非常に重く見てい

るはずだ。人口の半分以上を占める貧しい国民の数が蔓延（まんえん）すれば、総人口の中に占める生

産年齢人口の割合も今年から少しずつ減少し始め、2015年からはその絶対数

がたっている。若年労働者の数は頭打ちとなっていて、政治的にも経済的にも人民元に対して強い切り上げ圧力がかかっている。中

国に比べては人民元を上げることが多いいは、様々な理由によつてその切り上げに政府は慎重だ。こうした中で、人民

元を大きく切り上げなくて、企業のコストアップにつながる賃金の大幅な引き上げが起これば人民元の切り上げ幅を抑えることができ、という思惑を中国政

府がもってもおかしな経済学的には、為替レートの切り上がることで、国内の賃金や物価

が上がること、国内の賃金や物価が上がることは同じ効果を

持っているからだ。ただ、安い労働力をぶ

だに使うと、生産コストを下げるといふ中国の経済構造は、いま大きく変わろうとしている。この点だけは間違いないだろう。

# 人民元問題との関連注視

## 中国の賃上げどうみる

も減り始めるようだ。こうした人口構造の変化がすぐ労働者の賃金に反映されるわけではないが、私にはこの人口動態の変化が気になる。そして第3の重要な視点は、人民元問題との関係だ。経済学的には、為替レートの切り上がることで、国内の賃金や物価が上がることは同じ効果を持っているからだ。ただ、安い労働力をぶだに使うと、生産コストを下げるといふ中国の経済構造は、いま大きく変わろうとしている。この点だけは間違いないだろう。

（東大大学院

経済学研究科教授）

\*この記事・写真等は日経新聞社の許諾を得て転載してあります。